

## 患者向医薬品ガイド

2023年10月更新

# デュピクセント皮下注 300mg ペン デュピクセント皮下注 300mg シリンジ デュピクセント皮下注 200mg シリンジ

### 【この薬は？】

販売名	デュピクセント皮下注 300mg ペン DUPIXENT S.C. Injection	デュピクセント皮下注 300mg シリンジ DUPIXENT S.C. Injection	デュピクセント皮下注 200mg シリンジ DUPIXENT S.C. Injection
一般名	デュピルマブ（遺伝子組換え） Dupilumab (Genetical Recombination)		
含有量 （1製 剤中）	300mg		200mg

### 患者向医薬品ガイドについて

**患者向医薬品ガイド**は、患者の皆様や家族の方などに、医療用医薬品の正しい理解と、重大な副作用の早期発見などに役立てていただくために作成したものです。

したがって、この医薬品を使用するときに特に知っていただきたいことを、医療関係者向けに作成されている添付文書を基に、わかりやすく記載しています。

医薬品の使用による重大な副作用と考えられる場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

ご不明な点などありましたら、末尾に記載の「お問い合わせ先」にお尋ねください。

さらに詳しい情報として、PMDA ホームページ「医薬品に関する情報」  
<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/0001.html> に添付文書情報が掲載されています。

## 【この薬の効果は？】

- ・この薬は、ヒト型抗ヒトインターロイキン（IL）-4/13 受容体モノクローナル抗体製剤と呼ばれる注射薬です。
- ・この薬は、IL-4 受容体  $\alpha$  サブユニットに結合し、アトピー性皮膚炎、結節性痒疹、気管支喘息および鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎の病態において重要な役割を担う IL-4 および IL-13 の働きを抑えることで、症状を改善します。
- ・次の病気の人に処方されます。

### ●デュピクセント皮下注 300mg ペン、300mg シリンジ、200mg シリンジ

#### 既存治療で効果不十分な下記皮膚疾患

##### 〔アトピー性皮膚炎〕

- ・この薬はステロイド外用剤やタクロリムス外用剤などによる適切な治療を行っても十分な効果が得られず、強い炎症を伴う皮疹が広範囲に及ぶ人に使用されます。
- ・原則として、この薬を使用するときにはアトピー性皮膚炎の部位の状態に応じて抗炎症外用剤が併用されます。
- ・この薬を使用するときにも保湿外用剤が継続使用されます。

### ●デュピクセント皮下注 300mg ペン、300mg シリンジ

#### 既存治療で効果不十分な下記皮膚疾患

##### 〔結節性痒疹〕

- ・この薬はステロイド外用剤などによる治療を行っても、痒疹結節を主体とする病変が多発し、複数の部位に及ぶ人に使用されます。

#### 気管支喘息（既存治療によっても喘息症状をコントロールできない重症又は難治の患者に限る）

- ・この薬は中用量または高用量の吸入ステロイド薬とその他の長期管理薬を併用しても、喘息が悪化し全身性ステロイド薬の投与等が必要な人に使用されません。
- ・喘息の病態に影響を与える2型炎症に関連するバイオマーカー（血中好酸球数、FeNO、IgE等）の値を考慮した上で、この薬を使用するかの選択が行なわれます。
- ・すでにおきている気管支喘息の発作や症状を速やかに軽くする薬ではないので、急性の発作に使用してはいけません。

#### 鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎（既存治療で効果不十分な患者に限る）

- ・この薬は全身性ステロイド薬や手術等では症状のコントロールが不十分な人に使用されます。

- ・この薬は、医療機関において、適切な在宅自己注射教育を受けた患者さんまたは家族の方は、自己注射できます。自己判断で使用を中止したり、量を加減したりせず、医師の指示に従ってください。

## 【この薬を使う前に、確認すべきことは？】

〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- 次の人は、この薬を使用することはできません。
  - ・ 過去にデュピクセントに含まれる成分で過敏症のあった人
- 次の人は、特に注意が必要です。使い始める前に医師または薬剤師に教えてください。
  - ・ 寄生虫に感染している人
  - ・ 妊婦または妊娠している可能性のある人
  - ・ 授乳中の人
- この薬は寄生虫感染に対する防御機能に関わっている可能性がある IL-4 および IL-13 の働きを抑えます。寄生虫に感染している人は、この薬を使用する前に寄生虫の感染に対する治療が行われます。

〔アトピー性皮膚炎治療の場合〕

- この薬は病気を完治させるものではなく、この薬の使用中也保湿外用剤などを継続使用する必要があることを十分理解できるまで説明を受けてください。理解したことが確認されてから使用されます。

## 【この薬の使い方は？】

この薬は注射薬です。

〔自己注射する場合〕

### ●使用量および回数

- ・使用量は、あなたの症状などにあわせて、医師が決めます。

〔アトピー性皮膚炎治療の場合〕

- ・通常、成人及び生後 6 カ月以上の小児のアトピー性皮膚炎への使用量および使用回数は次のとおりです。

販売名	デュピクセント皮下注 300mg ペン、300mg シリンジ	
1 回量	成人及び体重 60 kg 以上の小児	
	初回	2 回目以降
	2 本	1 本
使用回数	2 週に 1 回	
1 回量	15 kg 以上 30 kg 未満の小児	
	初回	2 回目以降

	1本	1本
使用回数	4週に1回	

販売名	デュピクセント皮下注 200mg シリンジ	
1回量	5kg以上15kg未満の小児	
	初回	2回目以降
	1本	1本
使用回数	4週に1回	
1回量	30kg以上60kg未満の小児	
	初回	2回目以降
	2本	1本
使用回数	2週に1回	

- ・この薬は、通常、使い始めてから16週までには効果が得られますが、16週までに効果が得られない場合には、使用が中止されることがあります。
- ・この薬を600mg投与する際には200mgシリンジを使用しないでください。

#### 〔結節性痒疹、気管支喘息治療の場合〕

- ・通常、成人の結節性痒疹と、成人および12歳以上の小児の気管支喘息への使用量および使用回数は次のとおりです。

販売名	デュピクセント皮下注 300mg ペン、300mg シリンジ	
1回量	初回	2回目以降
	2本	1本
使用回数	2週に1回	

#### 〔鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎治療の場合〕

- ・通常、成人の鼻茸を伴う慢性副鼻腔炎への使用量および使用回数は次のとおりです。

販売名	デュピクセント皮下注 300mg ペン、300mg シリンジ	
1回量	1本	
使用回数	2週に1回 症状安定後は、4週に1回に変更できる	

### ●どのように使用するか？

- ・皮下注射してください。
- ・自己注射を開始する前には、必ず医師、薬剤師または看護師から自己注射のしかたに関して説明を受けてください。また末尾の「自己注射の方法」、自己注射のための小冊子「自己注射のためのガイドブック」もあわせて参照してください。
- ・使用前に300mgシリンジおよび300mgペンは45分以上、200mg

シリンジは30分以上かけて室温に戻してください。

- ・注射容器内がにごっていたり、色がついていたり、微粒子がある場合や容器が損傷している場合には使用しないでください。
- ・使用直前までこの薬のキャップを外さず、キャップを外したら直ぐに使用してください。
- ・腹部、大腿部または上腕部に皮下注射してください。腹部へ皮下注射する場合は、へその周り5cmは避けて注射してください。また、同じ箇所へ繰り返し注射することは避けてください。
- ・正常な皮膚の部位に注射してください。皮膚が敏感な部位、皮膚に損傷、打撲や傷がある部位、アトピー性皮膚炎の強い炎症のある部位には注射しないでください。
- ・1回に全量を使用し、再使用しないでください。
- ・この薬を振らないでください。

#### ●使用し忘れた場合の対応

- ・決して2回分を一度に使用しないでください。予定日に注射できなかった場合は、医師または薬剤師に連絡し、指示を受けてください。

#### ●多く使用した時（過量使用時）の対応

- ・異常を感じたら、医師または薬剤師に相談してください。

#### 〔医療機関で使用される場合〕

- ・使用量、使用回数、使用方法等は、あなたの症状などにあわせて、医師が決め、医療機関において注射されます。

## 【この薬の使用中に気をつけなければならないことは？】

### 〔この薬を使用される全ての方に共通〕

- ・この薬の使用によって他のアレルギー性疾患の症状が変化する可能性があります。他のアレルギー性疾患に対する適切な治療を怠った場合、症状が急激に悪化し、喘息などでは死亡に至る可能性もあります。この薬の使用だけでなく、投与間隔を変更したあとや使用を中止したあとも、医師の指示なく、他のアレルギー性疾患に対する治療内容を変更しないでください。
- ・この薬を使用中にショック（冷汗が出る、めまい、意識の消失、顔面蒼白（そうはく）、手足が冷たくなる）、アナフィラキシー（ふらつき、喉のかゆみ、動悸、息苦しい、全身のかゆみ、じんま疹）があらわれることがあります。これらの症状があらわれた場合は、ただちに医師に連絡してください。
- ・長期ステロイド療法を受けている患者さんは、この薬の使用開始後にステロイド薬を急に中止しないでください。ステロイド薬を減量する必要がある場合には、医師の管理のもとで徐々に行われます。
- ・この薬を使用中に、好酸球性肺炎および好酸球性多発血管炎性肉芽腫症の発

現があらわれることがあります。咳、息切れ、息苦しい、手足のしびれ、発熱、関節痛などの症状があらわれた場合は、医師に連絡してください。

- この薬を使用している間は生ワクチン〔麻疹（はしか）、風疹（ふうしん）、おたふく風邪、水痘（みずぼうそう）、BCG、ポリオ（小児マヒ）など〕の接種はできません。接種の必要がある場合は主治医に相談してください。
- 妊婦または妊娠している可能性のある人は医師に相談してください。
- 授乳している人は医師に相談してください。
- 他の医師を受診する場合や、薬局などで他の薬を購入する場合は、必ずこの薬を使用していることを医師または薬剤師に伝えてください。

#### 【気管支喘息治療の場合】

- この薬の使用開始後に喘息症状がコントロール不良であったり、悪化した場合は受診してください。

### 副作用は？

特にご注意いただきたい重大な副作用と、主な自覚症状を記載しました。副作用であれば、いくつかの症状が同じような時期にあらわれることが一般的です。このような場合には、ただちに医師または薬剤師に相談してください。

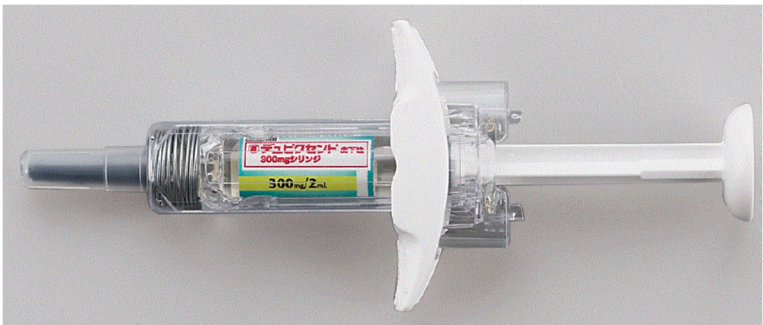
重大な副作用	主な自覚症状
重篤な過敏症 じゅうとくなかびんしょう	寒気、ふらつき、汗をかく、発熱、意識の低下、口唇周囲のはれ、息苦しい、かゆみ、じんま疹、発疹

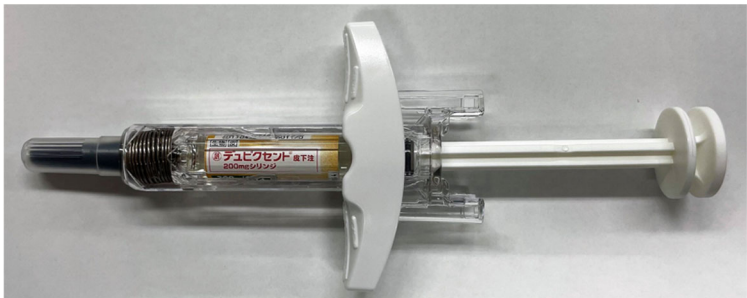
以上の自覚症状を、副作用のあらわれる部位別に並べ替えると次のとおりです。これらの症状に気づいたら、重大な副作用ごとの表をご覧ください。

部位	自覚症状
全身	寒気、ふらつき、汗をかく、発熱
頭部	意識の低下
口や喉	口唇周囲のはれ
胸部	息苦しい
皮膚	かゆみ、じんま疹、発疹

## 【この薬の形は？】

販売名	デュピクセント皮下注 300mg ペン
性状・剤形	無色～微黄色の澄明またはわずかに乳白光を呈する液 (注射剤)
形状	

販売名	デュピクセント皮下注 300mg シリンジ
性状・剤形	無色～微黄色の澄明またはわずかに乳白光を呈する液 (注射剤)
形状	

販売名	デュピクセント皮下注 200mg シリンジ
性状・剤形	無色～微黄色の澄明またはわずかに乳白光を呈する液 (注射剤)
形状	

## 【この薬に含まれているのは？】

有効成分	デュピルマブ（遺伝子組換え）
添加剤	L-ヒスチジン、L-ヒスチジン塩酸塩水和物、L-アルギニン塩酸塩、酢酸ナトリウム水和物、氷酢酸、精製白糖、ポリソルベート 80

## 【その他】

### ●この薬の保管方法は？

- ・外箱に入れたまま、凍結を避けて冷蔵庫（2～8℃）で保管してください。外箱開封後は光を避けてください。
- ・この薬を温めたり、直射日光にさらさないでください。
- ・子供の手の届かないところに保管してください。

### ●薬が残ってしまったら？

- ・絶対に他の人に渡してはいけません。
- ・余った場合は、処分の方法について薬局や医療機関に相談してください。

### ●廃棄方法は？

- ・使用済みの注射器とキャップについては、医療機関の指示どおりに廃棄してください。

## 【この薬についてのお問い合わせ先は？】

- ・症状、使用方法、副作用などのより詳しい質問がある場合は、主治医や薬剤師にお尋ねください。
- ・一般的な事項に関する質問は下記へお問い合わせください。

製造販売会社： サノフィ株式会社

(<https://www.sanofi.co.jp/ja/contact>)

コールセンター くすり相談室

フリーダイヤル 0120-109-905

月～金 9：00～17：00（祝日・会社休日を除く）



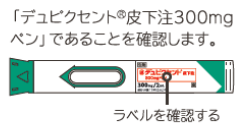
# <デュピクセント皮下注 300mg ペン>

## 注射前の準備

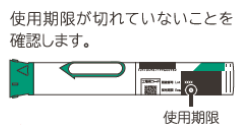
### 1 必要なものを準備する



### 2 ラベルの確認



### 3 使用期限の確認

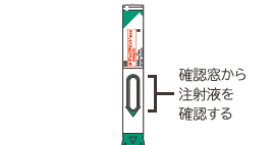


**注意**

- 使用期限が切れている場合は、使用しないでください。

### 4 薬液の確認

注射器の確認窓から、注射液が  
無色または薄い黄色で、濁ってい  
ないことを確認します。注射液中に  
気泡が見られる場合がありますが、  
問題ありません。



**注意**

- 注射液が本来の色(無色か薄い黄色)と違う、または濁っている場合、注射液中に粒子などが見られる場合は使用しないでください。
- 確認窓が黄色い場合は、使用しないでください。

### 5 室温に戻す

注射器を平らな場所に置き、室温  
に戻しておきます。  
45分以上室温に置いてから注射  
します。



**注意**

- 注射器は温めず、直射日光を避け室温に戻してください。
- 冷蔵庫から出した後は長時間放置しないでください。

## 注射する部位

### ■ 注射に適した部位は以下の3カ所です。

#### 上腕部(二の腕)の外側

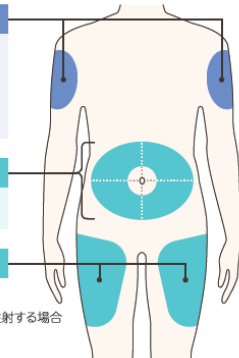
ご家族が患者さんに注射する場合は、上腕部(二の腕)に注射することも可能です。  
**患者さんご自身が注射する場合は、この部位は避けてください。**

#### へそ周り以外の腹部

へその周り5cmは避けて注射してください。

#### 太もも

■ 患者さんご自身、またはご家族が患者さんに注射する場合  
■ ご家族が患者さんに注射する場合  
(患者さんご自身が注射する場合は避ける)

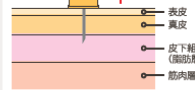


**注意**

- 衣服の上から注射しないでください。
- 12歳未満の子どもに投与する場合は、保護者が投与してください。
- アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位は避けてください。
- 前回注射した部位とは違う部位に注射してください。
- 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4カ所に分けて前回の注射とは別の箇所を選んで注射してください。

### 「皮下注射」とは?

デュピクセント®は皮下注射という方法で注射します。

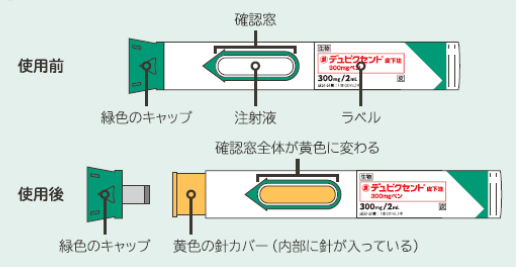


■ 皮膚の下にある皮下組織(脂肪層)に注射します。

■ 柔らかく少したるみがあるような部位を選ぶと注射しやすいでしょう。

## 注射の方法

### 各部の名称



### 1 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

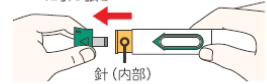


**注意**

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

### 2 緑色のキャップを外す

緑色のキャップをねじらず、まっすぐに引っ張る



- 注射の準備ができるまで、キャップは外さないでください。
- キャップを外す際は、ねじらずにまっすぐに引っ張って外してください。
- 指で黄色の針カバーを触ったり、押ししたりしないでください。針が内部に入っています。

**注意**

- 一度外したキャップは元に戻さないでください。

### 3 注射部位に当てる

注射器の黄色の針カバーを注射部位に当て、確認窓が見えるように持ってください。このとき皮膚に対して約90度の角度となるようにしてください。

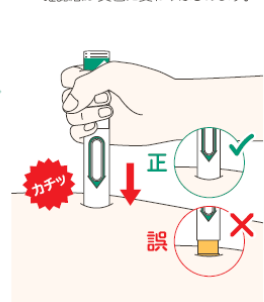


**注意**

- 指で黄色の針カバーを触ったり、押ししたりしないでください。針が内部に入っています。
- 12歳未満の子どもに投与する場合は皮膚をつまんだ状態で投与し、注入完了するまでつまんだ手を離さないでください。

### 4 押し当てる

黄色の針カバーが見えなくなるまで、皮膚にしっかりと押し当て、そのまま動かさないでください。注入が始まると、「カチッ」と音がして、確認窓が黄色に変わりはじめます。



### 5 しっかりと押し当てたままにする

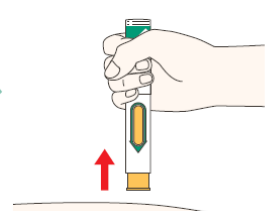
皮膚にしっかりと押し当て続けます。確認窓全体が黄色に変わったことを確認できたら、ゆっくりと5秒数えてください。注射器を皮膚から離したら、注入は完了です。



- 再び「カチッ」と音が聞こえることがあります。
- 確認窓全体が黄色にならない場合は、皮膚から離し、医師や看護師に連絡し、医師の許可なく2回目の注射はしないでください。

### 6 皮膚から離す

注射器をまっすぐに持ち上げ、皮膚から離してください。出血がある場合は、消毒用アルコール綿で軽く押さえてください。



**注意**

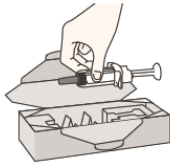
- 注射後に皮膚をこすらないでください。

# <デュピクセント皮下注 300mg シリンジ>

## 注射前の準備

### 1 注射器を取り出す

箱を冷蔵庫から取り出し、注射器本体を持ち、箱から注射器を取り出します。



#### ▲ 注意

- 注射前の準備が整うまで、針キャップを外したり、プランジャーに触れたりしないでください。
- 固いところに落ちたり、破損した注射器は使用しないでください。
- 針キャップが紛失している、またはしっかり取り付けられていない注射器は使用しないでください。

### 2 使用期限の確認、その他の準備

取り出したものが「デュピクセント®皮下注300mgシリンジ」であり、使用期限が切れていないことを確認します。

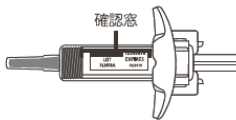
また注射に必要なものを用意します。

- 消毒用アルコール綿
- 廃棄用容器
- 補助具（ご使用される場合）



### 3 薬液の確認

注射器の確認窓から、注射液が無色または薄い黄色で、濁っていないことを確認します。注射液中に気泡が見られる場合がありますが、問題ありません。



#### ▲ 注意

- 注射液が本来の色（無色か薄い黄色）と違う、または濁っている場合、注射液中に粒子などが見られる場合は使用しないでください。

### 4 室温に戻す

注射器を平らな場所に置き、室温に戻しておきます。45分以上室温に置いてから注射します。



#### ▲ 注意

- 注射器は温めず、直射日光を避け室温に戻してください。

## 注射する部位

### ■ 注射に適した部位は以下の3カ所です。

#### 上腕部（二の腕）の外側

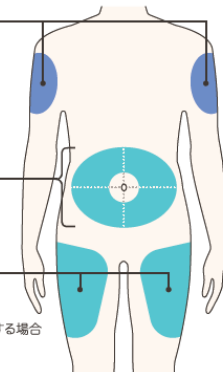
ご家族が患者さんに注射する場合は、上腕部（二の腕）に注射することも可能です。  
患者さんご自身が注射する場合は、この部位は避けてください。

#### へそ周り以外の腹部

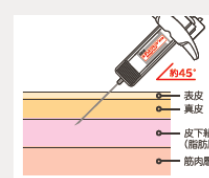
へその周り5cmは避けて注射してください。

#### 太もも

患者さんご自身、またはご家族が患者さんに注射する場合  
ご家族が患者さんに注射する場合  
(患者さんご自身が注射する場合は避ける)



- 衣服の上から注射しないでください。
- 12歳未満の子どもに投与する場合は、保護者が投与してください。
- アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位は避けてください。
- 前回注射した部位とは違う部位に注射してください。
- 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4カ所に分けて前回の注射とは別の箇所を選んで注射してください。



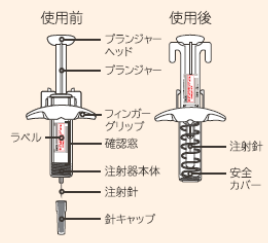
### 「皮下注射」とは?

デュピクセント®は皮下注射という方法で注射します。

- 皮膚の下にある皮下組織（脂肪層）に注射します。
- 柔らかく少したるみがあるような部位を選び注射しやすいでしょう。

## 注射の方法（補助具なし）

### 各部の名称



#### ▲ 注意

- プランジャーは絶対に後ろに引かないでください。

### 1 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

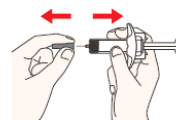


#### ▲ 注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

### 2 針キャップを外す

注射器本体の中央部分を持ち、針キャップを外します。



#### ▲ 注意

- 注射直前まで針キャップを外さないでください。
- 一度外した針キャップは再度取り付けしないでください。
- 注射針には触れないようにしてください。
- 針キャップを外したら、針が他の物と接触しないようにし、素早く注射を行ってください。
- 注射器内に気泡が見られる場合がありますが、問題ありませんので気泡を取り除く必要はありません。

### 3 皮膚をつまむ

注射針をしっかり挿入するために、注射する部位の皮膚をひだ状につまみます。



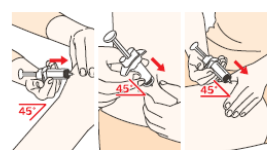
上腕部（二の腕）  
腹部  
太もも  
（ご家族のみ）

#### ▲ 注意

- 衣服の上から注射はしないでください。

### 4 約45度の角度で注射針を挿入

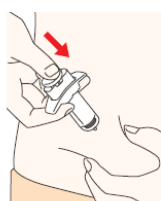
注射針をひだ状にした皮膚に約45度の角度で完全に挿入します。介助者が注射する場合、針を挿入してから、注射液を注入する前に、しびれがないか確認してください。しびれがある場合は針先を少し引いてください。



上腕部（二の腕）  
腹部  
太もも  
（ご家族のみ）

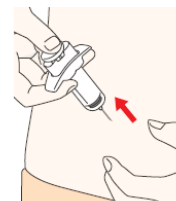
### 5 注射液を注入する

皮膚をつまんでいる手を緩め、プランジャーヘッドを注射液がなくなるまでゆっくり押し込みます。注射の際に抵抗を感じても、問題はありません。引き戻すことなく、ゆっくり押し込んでください。プランジャーヘッドは最後までしっかりと押し込んでください。



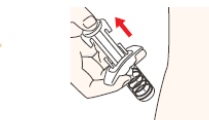
### 6 プランジャーヘッドを押ししたまま、注射針を抜く

プランジャーヘッドを押ししたまま、挿入したときと同じ角度（約45度）で、注射針を抜きます。



### 7 注射後

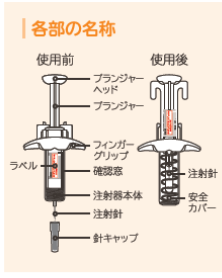
注射針を抜いた後に、プランジャーヘッドを押していた指をゆっくりと緩めます。安全カバーがスライドして、注射針が安全カバーに覆われます。出血がある場合は、消毒用アルコール綿で注射部位を軽く押さえてください。



#### ▲ 注意

- 注射が終わった後も、針キャップは再度取り付けしないでください。
- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないでください。
- 注射器は再利用しないでください。

# 注射の方法 (補助具あり)



**注意**

- プランジャーは絶対に後ろに引かないでください。

**1 消毒する**

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

**注意**

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

**2 補助具のスライド部の位置を確認する**

使用を始める前に、先端のスライド部が図の位置まで下がっていることを確認してください。

**注意**

- 補助具の破損がみられるまたは動作に不具合がある場合は、補助具の使用を中止して、かかりつけの医療機関へ連絡してください。

**3 補助具に注射器をセットする**

補助具の後部から、注射器をカチッと音がするまでしっかり奥までさしこみ、セットしてください。

**注意**

- 補助具のスライド部を触らないでください。
- 注射器のプランジャーを持たないでください。

**4 注射器の針キャップを外す**

両手で補助具を持ち、スライド部をのびして、針キャップを外してください。

**注意**

- 補助具のスライド部をのばす

**5 注射針を垂直にさす**

補助具を持ち、注射針を皮膚に垂直にさします。

スライド部が戻る過程で針がさる

**注意**

- スライド部に手が触れると、スライド部の動きの妨げになるので注意してください。

**6 注射液を注入する**

補助具を肌に押し付け、極力動かさないように固定します。固定できたら、反対の手で注射器のプランジャーヘッドをゆっくり押し込みます。プランジャーヘッドは最後までしっかりと押し込んでください。

**注意**

- 押し込んだ手を離さない

**7 プランジャーヘッドを押し込ま、注射針を抜く**

注射液を注入後、プランジャーヘッドを押し込ま、手を離さず、補助具ごと注射針を抜きます。

**注意**

- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないでください。
- 注射が終わった後も、針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射器は再利用しないでください。

**8 補助具から注射器を取り外す**

プランジャーヘッドから手を離すと注射器の後ろが自動で上がってきます。最後に図のように注射器の後ろをつかんで、補助具から抜きます。補助具は繰り返し使用できます。

**注意**

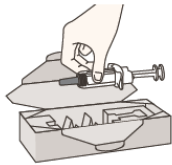
- 注射終了後の状態

# <デュピクセント皮下注 200mg シリンジ>

## 注射前の準備

### 1 注射器を取り出す

箱を冷蔵庫から取り出し、注射器本体を持ち、箱から注射器を取り出します。



#### ▲ 注意

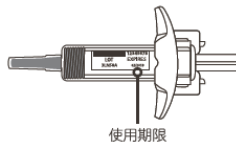
- 注射前の準備が整うまで、針キャップを外したり、プランジャーに触れたりしないでください。
- 固いところに落ちたり、破損した注射器は使用しないでください。
- 針キャップが紛失している、またはしっかり取り付けられていない注射器は使用しないでください。

### 2 使用期限の確認、その他の準備

取り出したものが「デュピクセント®皮下注200mgシリンジ」であり、使用期限が切れていないことを確認します。

また注射に必要なものを用意します。

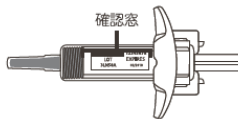
- 消毒用アルコール綿
- 廃棄用容器



使用期限

### 3 薬液の確認

注射器の確認窓から、注射液が無色または薄い黄色で、濁っていないことを確認します。注射液中に気泡が見られる場合がありますが、問題ありません。



#### ▲ 注意

- 注射液が本来の色(無色か薄い黄色)と違う、または濁っている場合、注射液中に粒子などが見られる場合は使用しないでください。

### 4 室温に戻す

注射器を平らな場所に置き、室温に戻しておきます。30分以上室温に置いてから注射します。



#### ▲ 注意

- 注射器は温めず、直射日光を避け室温に戻してください。

## 注射する部位

■ 注射に適した部位は以下の3カ所です。

### 上腕部(二の腕)の外側

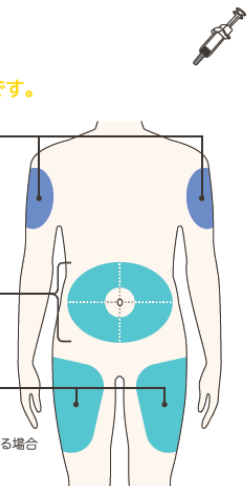
ご家族が患者さんに注射する場合は、上腕部(二の腕)に注射することも可能です。患者さんご自身が注射する場合は、この部位は避けてください。

### へそ周り以外の腹部

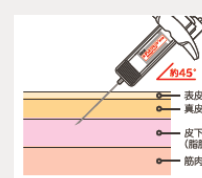
へその周り5cmは避けて注射してください。

### 太もも

- 患者さんご自身、またはご家族が患者さんに注射する場合
- ご家族が患者さんに注射する場合(患者さんご自身が注射する場合は避ける)



- 衣服の上から注射しないでください。
- 12歳未満の子どもに投与する場合は、保護者が投与してください。
- アトピー性皮膚炎の症状が重い部位、痛みがある部位、けがをしている部位、打撲や傷跡のある部位は避けてください。
- 前回注射した部位とは違う部位に注射してください。
- 腹部に注射する場合は、上図のように上下左右で4カ所に分けて前回の注射とは別の箇所を選んで注射してください。



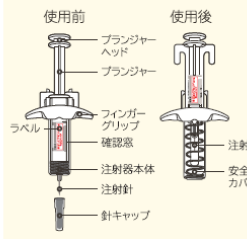
### 「皮下注射」とは?

デュピクセント®は皮下注射という方法で注射します。

- 皮膚の下にある皮下組織(脂肪層)に注射します。
- 柔らかく少したるみがあるような部位を選び注射しやすいでしょう。

## 注射の方法

### 各部の名称



#### ▲ 注意

- プランジャーは絶対に後ろに引かないでください。

### 1 消毒する

両手を石鹸でよく洗い、清潔なタオルで拭きます。消毒用アルコール綿で注射する部位を消毒し、乾かします。

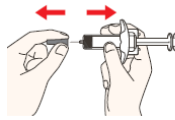


#### ▲ 注意

- 消毒後は注射部位に触れたり、息を吹きかけたりしないでください。

### 2 針キャップを外す

注射器本体の中央部分を持ち、針キャップを外します。



#### ▲ 注意

- 注射直前まで針キャップを外さないでください。
- 一度外した針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射針には触れないようにしてください。
- 針キャップを外したら、針が他の物と接触しないようにし、素早く注射を行ってください。
- 注射器内に気泡が見られる場合がありますが、問題ありませんので気泡を取り除く必要はありません。

### 3 皮膚をつまむ

注射針をしっかり挿入するために、注射する部位の皮膚をひだ状につまみまます。

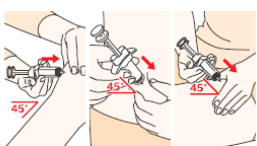


#### ▲ 注意

- 衣服の上から注射はしないでください。

### 4 約45度の角度で注射針を挿入

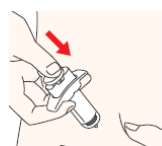
注射針をひだ状にした皮膚に約45度の角度で完全に挿入します。介助者が注射する場合、針を挿入してから、注射液を注入する前に、しびれがないか確認してください。しびれがある場合は針先を少し引いてください。



上腕部(二の腕) (ご家族のみ) 腹部 太もも

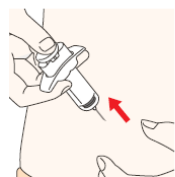
### 5 注射液を注入する

皮膚をつまんでいる手を緩め、プランジャーヘッドを注射液がなくなるまでゆっくり押し込みます。注射の際に抵抗を感じても、問題はありません。引き戻すことなく、ゆっくり押し込んでください。プランジャーヘッドは最後までしっかりと押し込んでください。



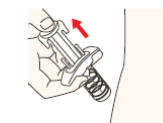
### 6 プランジャーヘッドを押ししたまま、注射針を抜く

プランジャーヘッドを押ししたまま、挿入したときと同じ角度(約45度)で、注射針を抜きます。



### 7 注射後

注射針を抜いた後に、プランジャーヘッドを押していた指をゆっくりと緩めます。安全カバーがスライドして、注射針が安全カバーに覆われます。出血がある場合は、消毒用アルコール綿で注射部位を軽く押さえてください。



#### ▲ 注意

- 注射が終わった後も、針キャップは再度取り付けないでください。
- 注射後、注射部位をもんだり、こすったりしないでください。
- 注射器は再利用しないでください。